【クレーム情報】

漂白剤を主成分にした洗浄剤での脱色

漂白剤を主成分にした洗浄剤による色の変化は昔からある事故ですが、近年は冬場に流行するノロウィルスの感染対策として次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が推奨されていることから、脱色などのトラブルが増えることが懸念されます。
今回は、漂白剤による事故の典型例を紹介し、その対策を考えます。

■事故の状態

前後スカートの裾付近や裏地裾付近、後ろ身頃左肩部分などがピンク色に脱色している。一部脱色の著しい部分の繊維は、脆化（ぜいか）している。

■原因

次亜塩素酸ナトリウムを主成分にした洗浄剤が付着したために脱色したもの。

原因が次亜塩素酸ナトリウムを主成分にした洗浄剤であることは、脱色部に残留している薬品を検出したり、主成分である次亜塩素酸ナトリウムを実際に付けて脱色を再現することで確認できる。

ただし、事故品が水洗いされている場合は、付着物が洗い流されているために薬剤は検出できない。また、誰が、いつ洗浄剤を付着させたのかがクレーム解決のポイントとなるが、それを的確に判断する方法はない。

■漂白剤を主成分にした洗浄剤

漂白剤を主成分にした洗浄剤には、次亜塩素酸ナトリウムまたは過酸化水素を主成分にした液状のものと、過炭酸ナトリウムを主成分にした粉末状のものがある。用途別に次のような各種商品が販売されている。

洗たく用や台所用漂白剤、電気洗たく機の洗たく槽洗浄剤、配水管洗浄剤、カビを除去するための洗浄剤、トイレ用洗浄剤など

■事故の防止対策

洗浄剤を付着させないことが基本となるが、誰が、いつ洗浄剤を付着させたのかが問題となることから、クリーニング工程での付着でないことを証明するためには、作業場内に漂白剤が主成分となる洗浄剤は持ち込まない、または使用場所を限定するなどの対策が必要。

加えて、利用者の身近にある洗浄剤が事故の原因になることや、付着したときはすぐに水で洗い流すことなどをアドバイスすることも有効な対策と思われる。

■洗浄剤の除去方法

洗浄剤は、水によるシミ抜きまたはウェットクリーニングで除去する。付着している場所が特定できればシミ抜きで対応できるが、特定できなければウェットクリーニングで全体を処理する。

シミ抜きやウェットクリーニングを行うときは、それに伴って生じる可能性のある様々な変化について利用者の了解を得ることが必要。

写真１　ワンピース

写真２　ピンク色の脱色部の一部は、白く著しく脱色し、脆化もしている

■品　　名…ワンピース
■素　　材…キュプラ100％
■取扱い絵表示…
■処　理　方　法…石油系ドライクリーニング、タンブラー乾燥